

## 平成 21 年度決算について

### 1 決算の概況

損益計算書(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

				21 年度	20 年度	21 年度
	大学	附属病院	センター病院	決算	決算	収支計画
経常費用①	11,228	20,964	22,561	54,754	53,606	54,027
経常収益②	12,454	21,248	22,758	56,461	54,223	54,033
経常利益③ ③=②-①	1,226	283	197	1,707	616	6
臨時損失④	22	-	-	22	25	-
臨時利益⑤	22	-	-	22	22	-
当期純利益⑥ ⑥=③-④+⑤	1,226	283	197	1,707	613	6
目的積立金取崩⑦	-	-	-	-	-	-
当期総利益⑧ ⑧=⑥+⑦	1,226	283	197	1,707	613	6

### 2 21 年度決算総括

平成 21 年度決算については、経常費用が前年度に対して 11 億円の増となり 547 億円。一方、経常収益が 22 億円の増となり 564 億円。差引で経常利益が 17 億円余の計上となりました。概要はこの後説明いたしますが、費用については附属 2 病院では人件費増等で増加したものの、大学部門では光熱水費の減や人件費の減で費用が減少しています。収益は附属 2 病院において入院単価、外来単価の増もあり診療収益が大幅に伸びました。当期総利益としては、収支計画に比べ、約 17 億円の増益となり、また 20 年度に比べますと、約 11 億円の増益となっております。

### 3 21 年度決算の概要

#### (1) 大学

費用については、教育支援・研究推進の取組として、医学科定員増への対応、キャンパス環境整備にかかる経費を増やし、教育環境の向上に資する取組を重点的に行いました。また、市等との協働による「大学まちづくりコンソーシアム」を設立し、都心臨海部構想への提言の実施、まちづくりを通しての研究・人材育成をすすめるため新設した横浜文化創造都市スクール「北仲スクール」等にかかる経費が増要因となっております。また、国の補正予算事業である教育研究高度化支援体制整備補助金の獲得(約 315 百万

円)、外部研究費の獲得(対前年 227 百万円の増等)が費用増となる一方、環境管理計画の策定・取組の実践をふまえた光熱水費の節減努力等(対前年▲約 123 百万円)、仕様の見直し等による施設管理委託料の減もあり、結果的に教育・研究経費等が対前年 48 百万円の微増となっています。

また、一般管理費についても、事業の見直しや、上記委託料・光熱水費の減等により、対前年▲62 百万円の減となりました。

教員・職員人件費については、教員・職員の欠員、職員の給与減、超過勤務手当の減等により、対前年▲461 百万円の減となりました。このうち、会計基準変更に伴うセグメント別人件費計上額の整理等による影響額が▲107 百万円となっています。

収益については、科学技術振興調整費の取扱いが受託研究から補助金に性質が変わったことにより、受託研究収入と雑益等の間で約 295 百万円の入り繰りがありました。その他主な増減として、入学者数の増により授業料等収益が対前年+60 百万円の増となったほか、上記教育研究高度化支援体制整備補助金の獲得や科学研究費間接経費補助金の増加(対前年 68 百万円)等により、雑益等が対前年+669 百万円となりました。

そのほか、固定資産の取得に伴う減価償却費が増加したことに伴い、資産見返負債戻入は+95 百万円となり、経常収益は対前年+454 百万円の増となりました。

なお、研究機器の除却に伴い、資産見返負債戻入、減価償却費がそれぞれ臨時的に発生し、臨時利益・臨時損失を計上しました。

結果として、当期総利益は+1,226 百万円となり、対前年においては+783 百万円の増となりました。

## (2) 附属病院

費用については、診療経費では高額な薬品や材料の使用増加による医薬材料費の増(対前年+554 百万円)や修繕費・保守費(対前年+193 百万円)が大きく増加し、診療経費全体では対前年+377 百万円となりました。

また、人件費については、看護系の職員増にともなう職員人件費の増(+106 百万円)や医学部臨床系教員の人件費の負担増(対前年+353 百万円)などにより対前年+489 百万円の増となりました。

なお、医業収益に占める医薬材料費比率については 35.9%で対前年+0.3%、人件費比率については 50.6%で対前年▲1.2%となりました。

収益については、手術件数の増加(対前年+388 件)や平均在院日数の短縮(対前年▲0.6 日)が図られたこと等による入院単価の増加(対前年+3,444 円)や、紹介率向上の取組みを進めたことや化学療法など高度な処置を必要とする患者の割合が増加したこと等により外来単価が増加(対前年+1,053 円)したことなどを受け、医業収益が対前年+1,361 百万円と大幅に伸び、収益全体では対前年+1,070 百万円となりました。

結果として、当期総利益は+283 百万円となり、対前年においては▲35 百万円となりました。

### (3) センター病院

費用については、手術件数の増加（対前年+107件）等による医薬材料費の増（対前年+540百万円）、仕様の見直しによる委託費の減（対前年▲152百万円）、医師等の増員、欠員の補充等による人件費の増（対前年+37百万円）等により、経常費用が対前年+372百万円の増となりました。

なお、医業収益に占める医薬材料費比率については33.9%で対前年+1.3%、人件費比率については47.8%で対前年▲1.7%となりました。

収益については、手術件数の増や医療連携の取り組み強化等により入院外来共に診療単価が上昇し、医業収益が対前年+817百万円となる等により経常収益は対前年+713百万円の増となりました。

21年度は、運営交付金の交付額が対前年▲127百万円という計画及び昨年度の決算をふまえて、収益の拡大、費用の縮減に最大限努め、結果として当期総利益は+197百万円となり、対前年+341百万円となりました。今後も引き続き経費の執行管理の適正化を図っていきます。

## 4 今後の課題

### (1) 大学

大学部門においては、21年度決算において大きく黒字を計上しましたが、仕様の見直し等による施設管理にかかる委託料の縮減、複写サービスの一括発注、節減努力による光熱水費の削減等、経費削減策に取り組んだ効果にあわせ、外部研究費の獲得額の増加や、国の補正予算事業の教育研究高度化支援体制整備補助金の獲得等による間接経費の増加と、職員、教員それぞれの取組が実を結んだものが多くあり、結果的に黒字が大きくなったものです。

その一方で、老朽化した各キャンパスの施設・設備整備等、今後多くの経費が必要となる事が見込まれており、今後は21年度同様の黒字基調になるとは言いがたく、さらに本学が抱える課題についても早急な対応を迫られることから、中期的に見ると大変厳しい財政状況であると言えます。

今後は、次期中期計画の策定にあわせ、教職員数・人件費の適正管理、学生・教職員が安心・安全にすごせるキャンパス環境の整備計画、寄附金の確保等の財源確保策、目的積立金の効果的な活用策も定めてまいります。

また今後は、期ごとの決算見込の精度を高めるとともに、予算の執行管理を適正にしつつ、費用と収益のバランスを把握しながら経営状況の分析をすすめ、法人の経営判断に活かしてまいります。

### (2) 附属病院

平成22年度は第1期中期計画の最終年度として引き続き健全な病院運営につとめてまいります。平成21年度決算で病床利用率が90.9%、一日あたりの外来患者数も1,900人を超えています。特に平日の病床利用率は100%近くになることも多く現在の病院機能・人員体制でこれ以上水準を上げることは困難な状況となっております。このような厳しい環境の中においても患者ニーズに応え、また収益を確保するため、手術室の有効

活用策などの検討を行い、そのために必要となる環境整備・人員確保に取り組んでいく必要があります。

第2期中期計画においては、大学附属病院として求められる高度先進的医療の提供機能や教育・研究機能の拡充を図っていく必要があります。このため、特にここ数年医療機器の整備費が十分に確保できず更新が滞っている老朽化した医療機器の整備や、開院後20年を経過し今後大規模な改修が不可欠である施設整備を着実に進めることが必要です。

また、救急医療やがん医療などの医療機能の積極的に取り組んでいくため必要となる施設整備・人員確保もあわせて取り組んでいく必要があります。運営交付金の削減圧力が強まることが予想される中、より一層の収支改善に取り組むとともに、病院運営に支障のないよう必要な額の運営交付金を確保していく必要があります。

### **(3) センター病院**

センター病院においては、中期計画で診療収入の増と医薬材料費比率の縮減、それに伴う運営交付金の縮減を掲げております。法人化以後様々な取組により、これまで診療単価等の顕著な増加が図られてきましたが、今後は今までと同様な伸びが厳しい中で、一層の病床の有効活用等により収益の確保に努める必要があります。

費用の面では、老朽化した医療機器等の更新を行います。また、昨年に引き続き早期発注や公募型プロポーザル等を有効活用し、診療経費の縮減に一層努め、経営基盤の安定を図ってまいります。